2011 年 10 月 5 日放送

印象に残る症例②

なかしまこどもクリニック　院長　　**中島　俊彦**

今回は、小建中湯を取り上げます。小児では虚弱体質といって、カゼをひきやすい、カゼをひくと長引く、元気がない等の症状を伴うお子さんがいます。私のクリニックにも、このような症状に対してどうしたらよいかという相談がよくあります。

おなかの中から元気を出して、カゼをひかなくなる、全身状態を良好にするというお薬は西洋薬には存在しません。小建中湯には膠飴と言って、漢方のアメが入っているために大変飲みやすく、お通じが良くなります。中には便秘症の改善目的で長期間にわたり小建中湯を内服しているお子さんも多くおられます。

さて、症例に入りましょう。症例 1 は、8 歳の男児です。主訴は 1 カ月前から続く腹痛、頭痛、胃の痛みです。半年前から小学校を早退、欠席を繰り返すようになりました。土日はサッカーをやっている元気なお子さんです。サッカー以外にも空手を習っており、毎日のように帰宅時間が遅いそうです。近くの市民病院を受診し、血液検査、レントゲン写真を撮るも異常はありませんでした。その後、当院を受診されました

診察所見です。咽頭発赤なし、心音異常なし。脈は浮。呼吸音正常。腹部は両腹直筋の緊張が目立ち、くすぐったい表情をしました。便秘も認められ、左下腹部に便塊を触れま

した。1 日おきに排便があるそうです。問診と診察の結果から小建中湯の適応と考えました。また、生活のリズムを整えること、習い事を減らして週に数日は早く帰宅して、休息がとれるように生活指導もしました。彼は小建中湯 5g/分 2 を飲んで翌日から元気になり、毎日排便が認められるようになりました。学校は毎日行けており、早退もありません。お母さんも大喜びです。3 カ月内服を続けて症状が安定したため廃薬となりました。

症例 2 は 14 歳の男子です。中学校でサッカー部に入っています。学校で腹痛が起こるのを何とかして欲しいという訴えで来院されました。腹痛は学校ではデストの前、サッカーの試合の前によく起こるそうです。自宅にいる時は腹痛は起きません。体重は 41kg 以上あり、体はガッチリしています。乗り物酔いもあります。

診察では腹直筋の緊張が目立ちます。咽頭所見、胸腹部の異常は特に認められませんでした。起立性調節障害と虚弱を考え、ミドドリン塩酸塩 2mg 2T/分 2 と小建中湯 10g/分 2 を開始しました。内服を開始して 1 カ月経過した頃から腹痛が認められなくなり、2 カ月後からはテストの前でも腹痛は起きなくなりました。3 カ月間両者の内服を続け、調子が良くなったため廃薬としました。以後、症状は悪化していません。

小建中湯は虚弱者の体質改善の目的に多く使用されます。漢方では、あらゆる病気の改善に消化器機能を立て直すことを最優先にします。まさに小建中湯はその基本処方です。虚弱児の体質改善、夜尿症、ヘルニア、胃腸炎、気管支喘息等の慢性疾患の体質改善に頻用されます。私は、体重増加不良、便秘症、反復性臍疝痛、過敏性腸症候群、起立性調節障害のお子さんによく使っています。

小建中湯がよく効くお子さんの特徴は、やせ型あるいはやや肥満傾向、顔色不良、眼のクマドリがある、マツゲが長い、おなかを触ると腹壁は薄く、全体に厚みのない柔らかいおなかをしている等です。

小建中湯にまつわる古典を探してみましょう。小建中湯の出典は『傷寒論』と『金匱要略』です。『金匱要略』の条文には、裏急、腹痛といった中焦の寒証と、手足の熱や口の乾燥といった熱証が夾雑した病証に対して、小建中湯で補脾し営衛陰陽の調和を図る治療方針が述べられています。

小建中湯は大変飲みやすい漢方薬です。漢方薬で治療をご希望の方が来られた時、小建中湯、甘麦大棗湯、桔梗湯が外来に置いてありますので、一口舐めてもらいます。こんなにおいしい漢方薬もあるんだよ、飲みやすいでしょうと、親しみを持っていただけるような工夫もしています。漢方薬に慣れてくれば、またエキス剤を内服して症状が良くなったという成功体験をされたお子さん、保護者の方は少々苦い漢方薬にも挑戦してくれます。不思議なもので、1 歳までに漢方のエキス剤を飲んでいる赤ちゃんは、その後もずっとエキス剤を普通に飲んでくれます。また、治療の途中で抗生物質が必要となり追加処方します

と、人工的な味付けを嫌うという面白い現象も起きます。

とにかく早くキレイに患者さんが治るお手伝いをするのが私の役目です。こんな手もあるよ！という１つの提案ができるのは､漢方薬を治療に取り入れている強みだと思います。決して漢方薬だけで治そうと思わずに、西洋薬を使いながら、明日病気を治すつもりでいきましょうというスタンスで治療をしています。そうなると、もっと気楽に漢方薬を使うことによって、今まで以上に早くスッキリ、後遺症なく治る患者さんが増えることと思います。ぜひ気軽に使って下さい。

次に、小児の漢方用量についてお話しします。一般には成人量を目安に体重換算して半量とか 1/3 量などにしています。私は 0.1g～0.2g/kg/day を患者さんの都合により分 2 あるいは分 3 で処方しています。発汗、解熱を図って処方される麻黄湯も 0.1、0.2 と処方量を変えて試しましたが、0.1g/kg/day でも十分に発汗して解熱します。ただし、0.1g/kg/day で症状が治まらない時には、0.2g/kg/day まで増量すると素早く症状が軽快するのを経験します。少量から始めておいて、うまく行かない時には増量を図るのが賢明です。漢方治療中、時々用量依存性の面を見ることがあります。

最後に、漢方薬の飲み方についてお話しします。漢方エキス剤をそのまま飲めるお子さんもおられますが、最初は苦労することが多く、ハチミツ、ココア、ゼリーなどに混ぜる、食事のおかずに入れる等の工夫で 7 割方のお子さんは飲めるようになります。本人が良いと思うものであれば何にでも混ぜて飲んでもらって結構です。お子さんの場合、まず薬が飲めることが大切で、その次にうまく治るという経験をしてもらえるように励まします。日本人は他人をほめることが苦手です。嘘でも相手をほめて、いい気になってもらうのが良いです。頑張って漢方薬を飲んで病気が治ったら、お子さんも得意満面です。声を出して叱るとノドがしまってしまい、薬がノドを通過しません。うまく漢方薬が効くように保護者への配慮、応援も必要です。